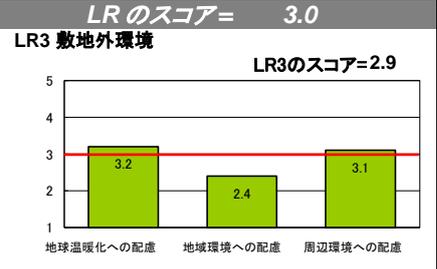
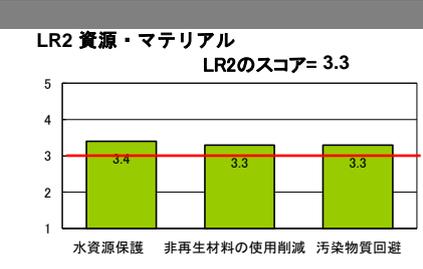
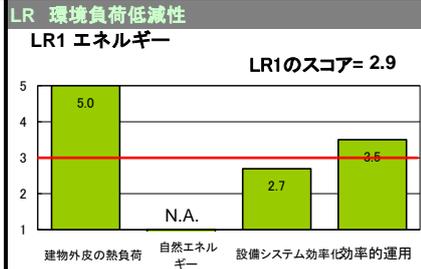
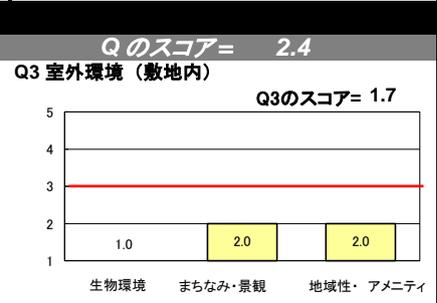
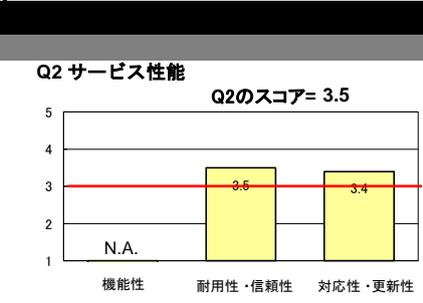
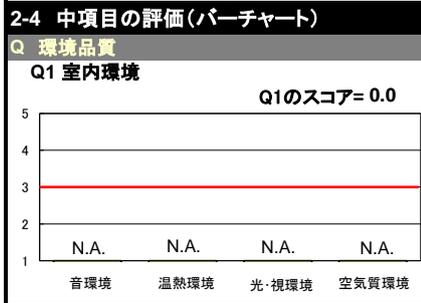
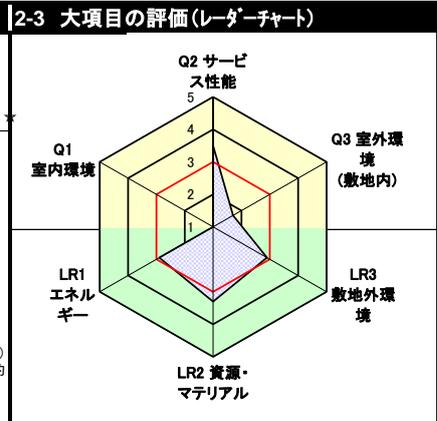
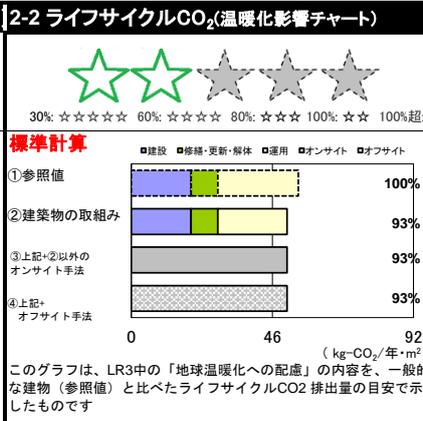
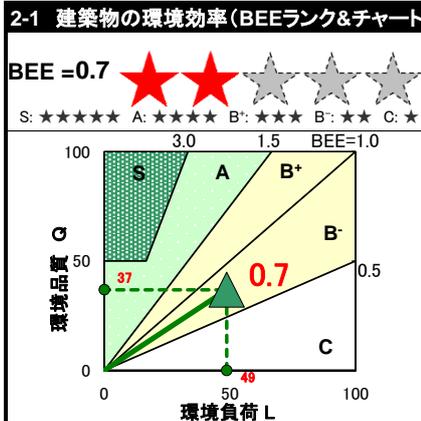


1-1 建物概要	
建物名称	東京応化工業㈱ 相模再構プロジェクト期建設工事 新C-1棟
建設地	高座郡寒川町田端1590-1
用途地域	工業専用地域、防火指定なし
地域区分	6地域
建物用途	事務所、工場
竣工年	2019年8月 予定
敷地面積	2,331 m ²
建築面積	1,429 m ²
延床面積	5,779 m ²

1-2 外観	
階数	地上5F
構造	S造
平均居住人員	100 人
年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
評価の段階	
評価の実施日	2017年10月9日
作成者	鹿島建設(株)横浜支店一級建築士事務所
確認日	2019年3月29日
確認者	鹿島建設(株)横浜支店一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項

総合		その他
<p>新C-1棟は危険物製造所に該当する。既存の実験室機能を集約するだけでなく、新規製品の試作や量産移管前の小〜中量生産を行う製造室で、一部既存の危険物貯蔵所を移設することから、製造・実験環境の安全を確保するため、従業員の動線、セキュリティ計画等、施設の使い勝手を向上し、実験内容の変化に追従できる合理的でフレキシブルな建築・設備システムを構築している。</p>		<p>LED照明設備を導入し、省エネルギー化を図っている。</p>
Q1 室内環境	Q2 サービス性能 内外装には必要更新期間の長い材料を採用している。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー 年間熱負荷係数BPI _m =0.56としている。	LR2 資源・マテリアル 主要構造体と仕上材を容易に分別する事が可能な仕様とし、再利用可能な部材の採用に努めた。建築材料に関しては化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材種別を4つ以上採用している。	LR3 敷地外環境 照明計画において敷地外へ光害が発生しないよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される